

PBP2011 参戦記

豊橋技術科学大学 修士 1 年 情報・知能工学専攻 宮崎航

1 ブルベとは

今回参加した PBP(パリ〜ブレスト〜パリ)とはブルベという競技である。ブルベとは 1897 年イタリアで始まった Audax というキャプテンの先導のもとに決められた一定速度ではしるものを、1904 年にツール・ド・フランス創始者であるアンリ・デグランジェがフランスに導入したものであり、「認定」という意味があるⁱ。

レースではなくロングライド形式の競技なので、参加者の年齢層がかなり高い。PBP2003 の完走者の平均年齢は 48 歳、当時国内(埼玉)の参加者の平均年齢は 41 歳で主に 30 代・40 代が多いⁱⁱ。トライアスロンやフルマラソンなども年齢層が高いが、学生も多くいるのに対して、ブルベではほとんど学生はいない、そのため学生という事がばれると大抵「何でこんな(ブルベ)やってんの(笑)?」的な反応される。

運営スタッフは全てボランティアで構成されており、営利目的の競技ではない。そのためサポートはない、DNF(Do Not Finish)する場合は自力でスタート地点なり帰宅しなければならないⁱⁱⁱ。

2 ブルベとの出会い

高専時代まで 11 年間サッカーをやっており、大学編入後はトライアスロンを始めた。一般的な大学生と同じようにレース形式のものにも多少は参加していた。

大学初めての夏休み、まだ研究が始まっておらず毎日泳いで・漕いで・走ったり練習に明け暮れていた。しかし、当時の自転車の距離は最長で 80km 程度だった。そんなある日の午前中 50km ほどの自主練をこなし、シャワーを浴びている時に部の先

輩からメーリスが流れた。「3 時ぐらいから適当に 60km ぐらいバイク練します。」今思えばなんである時参加したのか良く分からないが、ジャージに着替えて練習に参加した。

集まったのは 3 人・・・、突然のメーリスだったのでこんなものなのかも。途中自分がパンクしたり、午前中に既に自主練したという事を先輩に話したら、「そんなにやる気あるなら、60km なんて物足りないかもね」という事になり、延長して 90km ぐらいになった。ヘトヘトになりつつ、カントリーモーニング^{iv}に立ち寄った。そこで今回 PBP に一緒に行った石原さんと出会う。初めて 1 日で 100km 超えました、と言うとブルベを教えてもらった。そこで聞いた話はとても楽しそうで自分もやってみたいという気になった、しかし今から参加出来るのは近畿の 600km しかなく、当時では想像も出来ない距離に完全にビビってしまい、切り良く来年から参加することを決意した。

3 初のロングライド

ブルベ参加を決意したのは良いけど、短くても 200km を 13 時間 30 分で走りきらなければならない。100km をようやく超えたばかりの自分が 200km も走りきれるのだろうか? という不安があった。

ちょうどその頃表浜 BW^vが始まり、別の先輩に言われるままに全日(10 日間)参加した。そこで色々な人に出会ったり、10 日間続けて一つの事をやり遂げた感動と自信を得た。その後すぐ浜名湖で初めてトライアスロンに参加し、予想以上の好記録に「今なら出来る」という自信が持てて翌週、愛知〜東京の約 300km のロングライドを実行した。

あの時は、装備とか食料なんてどうすればいい

のか全く分からず、取りあえず着替えとか必要になりそうなものは全部背負う事にした。食料は出来るだけ節約するために、前日におにぎりを5つと飴だけ買って、AM4:00 スタートした。

ブルベを意識して制限時間を20時間とし、結局328kmを19時間10分で走りきることが出来た。途中で飲み物しか買わず、食料はおにぎり5つだけで最後までハンガーノックになる事はなかった。あの時初めて300kmを走って東京都の看板を見た感動は今でも覚えている。

4 ロングライドにおける24時間の壁

初の300km越えを達成して充実の夏を過ごして、調子に乗って秋に600kmにチャレンジしようとした。3連休を利用して、愛知～大阪～愛知の600km40時間を計画し実行した。

どうせ24時間超えるわけだから、グッスリ寝てAM9:45 スタート、奈良に入る時までは調子良く、これはいけると思っていた。しかし夜になり本格的な夜ライドになる。前回の東京行きは暗くなるころには街の近くに入っており、真っ暗というのは経験していなかった。ライトはしょぼい物しか持ってなく、スピードを出す事が怖くなった。霧も出てきて気温も下がり、体力を奪われていった。

不思議と眠気はあまりなかったが、腹が減ってきてスーパーで補給をする。ここで24時間営業のスーパーの有り難さを身をもって実感する。補給もして冷静になった所で、このまま大阪に行く事は可能だろが帰れないと判断し、香芝で折り返すことにした。

その後は名古屋で眠気がきて危なかったが、無事帰宅する事が出来た。484km、32時間56分だった、ブルベ的に言えばタイムオーバーであり、400km以上の難しさを知った。

5 PBP エントリーについて

PBP 参加には、まず2010年の認定距離でエントリー優先権が得て、2010年10月～2011年7月までにSR(Super Randonneur)の称号を得なければならない。優先権に関する認定距離の上限は3200kmとし、1000km以上の認定は600kmとして計算されるⁱ。

SRというのは同年度に200km・300km・400km・600kmの認定を受ける事で得られる称号の事ⁱ。短い距離は長い距離で代替することが出来る。各距離の制限時間を以下に示す。

表1：制限時間

距離[km]	制限時間
200	13 時間 30 分
300	20 時間
400	27 時間
600	40 時間

6 ブルベ参戦

宣言通り翌年(2010年)0124名古屋200kmに参加した。ライトが相変わらずしょぼくて金井さんにチェックされたが、200kmっていう事で勘弁してもらった。

このブルベでは、200km全部石原さんに付いて行くコバンザメ戦法により9時間50分で完走。

300kmも名古屋に参加したかったが、予定が合わず0320埼玉300kmに参加した。交通費節約と練習も兼ねて自走で行くことにした。前泊してAM0:00にスタート。基本的に平坦で、往路・復路ともに追い風だったので快適に16時間20分で完走。帰りは初輪講しました。

翌週0327名古屋400km、400kmという距離には不安はあったはずなのに、70km自走で行き、そのままスタート。初めての標高1000mを超え、マックでの仮眠を経験し24時間32分で完走。

4月はフルやウルトラマラソンに参加して、0501中部600kmに参加。SRの称号をかけて落としたく

ない一戦。スタート前にエライとこに来たねと金井さんに言われる、どういう事かという、ブルベは各地で行われているが、中部地区(中部・名古屋・静岡)は特にキツイらしい。そういう事を含んだ「エライとこ」だったらいい。しかし来てしまったものは仕方ないし、ここで完走出来たら大きな自信になると思い、テンション上がってスタート。

荷物は過去最高に背負っていたはずなのに、かなり調子がよく、難関といわれている中部の初めての 600km を 38 時間 5 分で完走。その後は以下のような結果になった。

表 2：2010 年後半結果

主催	距離[km]	結果
0626 静岡	600	DNF
0807 近畿	300	18 時間 5 分
0905 神奈川	200	13 時間 7 分
1002 埼玉	600	35 時間 53 分
1008 中部	1000	DNF

2010 年の認定距離は 2600km で優先権が得られるか微妙なところだったが、結果を見てみると定員割れにより余裕で優先権 GET！！

7 PBP に参加するために

優先権は取れたから後は SR になればいいだけであるが、1 月・2 月は実務訓練のため 3 月のブルベから参加することになった。結果は以下のようになった。東日本大震災があったにも関わらず、開催してくれたスタッフの方にはいくら感謝しても足りないぐらいです。

表 3：2011 年結果

主催	距離[km]	結果
0305 静岡	300	17 時間 52 分
0326 名古屋	400	25 時間
0402 静岡	300	19 時間 4 分
0423 名古屋	600	39 時間 32 分
0430 信濃	200	12 時間 12 分
0723 静岡	600	38 時間 58 分

参加権利がかかった 0423 名古屋 600km では雨が続きギリギリの完走になってしまったが、参加したのには全部完走出来て良い感じで PBP に行く事になった。

8 PBP 参加のスケジュール

今回は AJ 近畿がツアーを企画してくれたので、その企画で行く事になった。

8 月 18 日(木)

23:25 関西空港発

8 月 19 日(金)

05:05 ドバイ着

08:20 ドバイ発

13:30 パリ着

バスでホテルまで移動

8 月 20 日(土)

前日受付

8 月 21 日(日)～8 月 25 日(木)

PBP

8 月 26 日(金)

終日自由行動

8 月 27 日(土)

バスで空港まで移動

15:35 パリ発

8 月 28 日(日)

00:15 ドバイ着

03:00 ドバイ発

17:10 関西空港着

時間は現地時間です。時差はドバイは - 5 時間、フランスはサマータイムのため - 7 時間。

9 PBP 参戦！！

8 月 21 日__18:00 スタート

夕方スタートなので当日の準備はゆったり出来た。スタッフの言っただけの言葉で印象に残っているのが以下 2 つ、

①スタート時間の理由

「幻想的な時間だから」

②完走者に対して

「君が見た景色が観光では見えない、本当のフランスだ」

①あたりは絶対日本人は言わない気がする。

16:00 からは 80 時間の部が先にスタートのはずが、特にトラブルがあったわけでも無いのに、10 分スタートが遅れる。これがフランス時間というやつなのか。

この大会はツールドフランスと似ているんだけど（創始者が同じ）、レースじゃないから基本的にのんびり走る人が多いんだけど、このグループはレースみたいな感じだったらしい。ちなみにトップは 44 時間 13 分でゴールしている。

17:30 からはタンデムなどのスペシャルバイクの部がスタート

スペシャルバイクは上りでは遅いけど、下りがめちゃくちゃ速い！！特に途中で赤い自転車に出会ったけど、

下りで抜かれた時はロケットみたいだな～と思った。

そして、いよいよ 18:00 より 90 時間ロードの部が順次スタート。参加人数が多いからウェーブスタートとなり、第 5 グループで 19:40 からスタート。日本ではブルベで交通規制はありえないんだ

けど、市街地を抜けるまで、ボランティアスタッフの人が車を止めてくれたので、ガンガン飛ばせるし、子供たちがハイタッチしてくれたり、すごい注目されている大会なんだと実感した。車も自転車に対して優しいので走っていて気持ちいい。対向車から「アレーアレー」って何回も応援された。流石に田舎道に入ったら、人は減ったけど信号がないし走りやすい。フランスは日没が 21:00 ぐらいなので暫くは明るい道が続く。所要所では今大会のために矢印が設置されており、1500 人規模のボランティアスタッフの力と、この大会にかけけるフランス人の情熱を感じる。往路復路で矢印が分けられており夜には光る。夜になると周りに明りが全くないので真っ暗になる。その代わり、参加者のテールライトで一筋の道が出来るのは綺麗だった。5000 人以上の参加者がいるから出来る芸当。

144km 地点「MORTAGNE-au-PERCHE」到着、water が通じないのには驚いた。コカコーラ？とか言われたんだけど！！アクアって言っても通じないし・・・仕方ないので隣の人が買ったやつを指差して this って言って、やっと水 GET。私設エイドでウォーター？アクア？とか言っていたのは何だったんだろうか・・・

夕方スタートしたから、ここら辺で眠気が出る。そして、一般観光者が絶対しない経験、フランスの道端で仮眠に挑戦。良い場所を探したんだけど、日本と違ってバス停ほとんどないし。両サイドは牧場みたいな感じで私有地っぽい感じだし。なかなか見つからなかった。

やっと見つけたスペースで仮眠。下が砂利で結構寝にくいけど、10 分仮眠。何人も参加者が通過して行っただが、序盤だった事もあり起こされる事は無かった。※後半で夜寝っていると、心配されて「ムッシュ？ムッシュ？」って起こされる。目覚めても、とにかく真っ暗で景色を楽しめなかったが、

夜が明けてくると、少し建物が見えてくる。たまに通過する集落的なところには、必ずといっていいほど教会がある。

221km 地点「VILLAINES-la-JUHEL」、ここは本当に小さな村なのに、中心にでっかい教会があって印象に残っている。ここで朝食を買うときにも、全く通じず、結局指差し注文。ここから次までも、相変わらず走りやすい道が続く。でもやや雲行きが怪しい？案の定雨が降り始める。4 日間の大会だから途中雨が降るのは想定内なのでカップを着る。雨の中村に入りそこで電光掲示板に PBP の宣伝が！！こんな所でも注目されているなんて、すごい大会なんだな～ でも日付間違っていないか？前日受付込みの時間なのかな？

310km 地点「FOUGERES」、ここに到着直前にパンクしたので、フロアポンプが借りれるからスタッフのいる所で修理。なんか直してやるよって言われたので、お願いした。よくわからないが、ホイールが軽くて良いねって言われた気がする。フランス語はサッパリだけど、雰囲気とジェスチャーである程度は理解できる。コントロールでチューブは勿論、ホイールやフレームまで売っているの、大体のトラブルには対応できるようになっている。ここでは、特にお腹も減って無かったので補給なし。雨で濡れて寒くなってきたので、アンダーアーマーを穿いてスタート。徐々に天気も良くなってくるが、気温が上がらない。

364km 地点「TINTENIAC」、ここで食べた肉が大会中で一番うまかった。レストランや外に寝てる人が増え始める。取材されている人もいた。もし取材されたらどうしよう～とか思っていたが、取材どころか、誰にも話しかけられず食事終了。外の日向が気持ちよかったので、30 分ほど仮眠。再出発しようとしたら、カナダ人 5 人に「Japanese?」って話しかけられるも 英語が分からないので、会話できずサッサと出発。

何人かは着ているジャージで判断しています。ここまででは、時間的にもそこそこ余裕があり、ミスコースも無く良い感じだったのに・・・ここからの区間が色々厳しかった。

364km 地点「TINTENIAC」、ゴールまで約 900km・・・仮眠して少し元気になって再スタート、天気曇り。相変わらず走りやすい長閑な道が続く。この辺になると疲れか慣れかは分からないが写真が減っている。200km 地点ぐらいから、一人になるのが増えた気がする。遠くの方に参加者は見えるんだけど、中々追いつかない。後ろから来る人はサッサと行ってしまう。緩やかアップダウンを繰り返して、長めの坂を上って、ダウンヒルが開始しようとした時・・・本当に一瞬で大雨になった眼鏡に水滴が付いて視界が至極悪い。大雨だけなら運が悪いで済まされたかもしれないが、しばらくして雷が鳴り出した。何が嬉しくてフランスまで来て雷雨の中、自転車に乗らなければならないのか？しかも周りは、相変わらず牧場ばかりで高い建物が無い。雨のせいで周りに誰もいないように見える。

（これは、近くに落ちればかなりヤバいのは・・・）光ってから音が 2、3 秒で聞こえて結構近くない？若干雷に怯えながらも、雨宿り出来る所も無いので進むしかない。数 km 進んだ所で 20 人ぐらいの参加者に会う。特に変わった事の無い道で集まっていた。話しかけても、会話できないので様子を伺ったところ。参加者の一人が電話をしている。その前には通行止めのポールが置かれていた。多分、雷雨の影響か何かで通行止めになったから、どうすればいいかスタッフに確認していると思われる。そして、電話が終わり脇道を指差した。なるほど迂回路を教えられたわけね。

で、あの人に付いて行けば正規ルートに戻れるというわけか。道狭いし、雨だし、暗くなり始めたし、マッタリ行くのかな？スタート時以来の久し

ぶりの集団走行で脇道へ・・・ えっ・・・はぁ！？
おいしいーーーーー！？速えーーーーー
ー！？何？何？何この 「俺に付いてこれなきゃ失
格だぜ？」的なスピード H×Hとかオーバードライ
ブでこんな展開あったけど、ここ現実だよ？3次
元だよ？あとこれレースじゃねえから！！全体
としては序盤でも約400km走ってんのに、なんて
事しやがる。

しかし、正規ルートを外れた今置いて行かれると
リアルにヤバイ。街中ならなんとかなるが、夜の
田舎道に置いて行かれるのは非常にヤバイ。今ま
でマイペースを心掛けてきたが、ここは全力で追
走。緩やかな上りを30km/hぐらいで走るも、ジワ
ジワ離される。マズイ。下りではさらに離される。
追いつけない・・・ たった5kmぐらいだったがそ
んな状態が続き、とうとう視界から消えた時、集
落に入った。しかも矢印発見！！正規ルートに復
帰できた。雨も止み始めて、日の光が出てきた。
さっき夜になったと思ったのは勘違いで、雲が予
想以上に厚くて暗くなっただけみたい。良かった
良かったと喜んだのも束の間・・・また雨・・・
雷はないけど大雨と呼んでいいレベル。そして、
今度こそ本当に夜になる。

緩やかな下りに差し掛かると前方から眩い光
が！？遂に来てしまった、先頭集団(7人ぐらい？)
との遭遇。予想はしていたけど400km程度ですれ
違ったか、向こうは800km地点だから、ほぼ倍速
で進んでいる事になる。バケモノめえーなんで
あんなに速いかな～とか雨やまないかな～とか
考えながら、線路前で一時停止すると呼び止めら
れた。前方の明るい所を指差して何か言っている。
だが何を言っているのかはサッパリ。おそらくあ
そこに行けと言う事だと思う。でゆっくり近づく
とスタッフがいて誘導された。大体予想は出来て
いたが、シークレットポイントだった。※参加者
が指示された道を走るように、たまにこういう事

がある 呼び止めた人も、一言「シークレット」
って言ってくれたら分かるのに・・・ フランス語
で言っていたかもしれないが、言ってる事は分か
らなかった。ここではトイレだけ済ませて、雨の
中再スタート。これ以後、結構な頻度で折り返し
た人達とすれ違った。これはどの辺で撮ったのか
よく覚えていない。結局雨は止まず、今までより
キツメのアップダウンを何回もクリアし、ボーっ
としていて、ロータリーの出る道を間違えたりし
つつ。

449km 地点「LOUDEAC」、自転車置き場の近くで日
本の国旗(結構デカイサイズ)を振っていた方がい
た。「お疲れ様、コントロールは左、日本のドロッ
プバックは右です。頑張ってください。」と言われた。
いつくるかも分からない日本人のために、目立つ
ように国旗を振り続けているとは、本当にありが
とうございます。言われた通り、ドロップバック
を受け取って、持ち込んだ羊羹とか手に入れたか
ったけど、眠すぎてそれどころではなく、食堂で1
時間仮眠。周りには同じように寝ていた人が多か
った。ここでたっぷり寝たので、とうとう時間に
余裕が無くなり。羊羹を持っていく事も無く再ス
タート。雨は止んでいた。時間ギリギリだから、
今ここにいる人は、既に折り返してきた速い人な
んだろうな～と思いながら、のんびり一人で次の
ポイントを目指す。街中で矢印を見失いミスコー
ス。田舎道だと矢印目立つけど、街中のロータリ
ーだと分かりにくい。田舎道でいやらしいアップ
ダウンを一人寂しく突き進む。寝たつもりだった
けど、まだ眠気が取れずフラフラ蛇行する。する
と後ろから8人ぐらいの集団に一気に抜かれる。
あまりに突然な出来事と、その勢いに眠気がぶっ
飛ぶ。あれに付いて行けば眠気が誤魔化せるかも
と思い、後ろに付こうとしたけど、速くて無理。
しかし、さらに後ろから別の集団。いなくなれば
別の集団・・・集団・・・集団・・・ 一体どんだ

け後ろにいるんだ！？　そういえば、外人の人達は道中はサッサと行って休憩でガッツリ休むって聞いたような気がする。人によってはワイン飲んでる人いるし・・・　どんだけ余裕なんでしょうね～　羨ましい。そんな事を思っても一緒に行けないのだから一人で進むしかない。

493km 地点「SAINT-NICOLAS-du-PELEM」、ここはチェックとかなく食事だけの場所、時間もギリギリだったのでスルー。　夜が明け始めて、少し眠気が無くなってきて、天気もよく良い感じ。しかし、疲れが溜まっているのかマイチスピードは出ない。　どこに行っても出てくるこのアップダウンには少々ウンザリさせられる。次のポイントまで数km という所で日本人に出会う。「時間ギリギリですけど間に合いそうですね」「多少遅れても問題ないですよ」「でも間に合うなら、間に合いたいですよ」的な事を 1km ほど走りながら話す。やっぱ会話出来るっていうのは素晴らしいね。気持ちになる。何故皆が複数人で走るのかが分かる気がする。

525km 地点「CARHAIX-PLOUGUER」、制限時間 8 分前！！ギリギリセーフ　取りあえず朝食、写真ねえ～　どんだけ余裕ないんでしょうねㄏ(´-`)ㄏ出発しようとしたら、さつきとは別の日本人に声をかけられる。「水余ったんで要りますか？」　そういえばボトルに水入れてない事に気づき、有り難く貰う。　自分の水が全然減っていない(ボトル 1/3 ぐらいかな？)けど、残った分はその場で飲んだ。　その人は 21 時スタート組らしく、まだ多少余裕があるみたい。まだ「BREST」に行っていないが、既に折り返して来た友人によれば、
「BREST」直前に緩くて長い上りがあるらしい。
「平坦無いですね～」　「予想以上にキツくないですか？」　「もう少しで折り返しですね」　など少し会話して、水と情報のお礼を言い再スタート。

ここぐらいから今まで以上に、すれ違う人が増える。　で、教えてもらった区間に差し掛かる。　確かに緩い上りが続いている。結局 10km ぐらいだったかな。頂上に近づくにつれて霧が出てくる。結構濃くて視界が悪い。これは写真撮らなくてはと思ったけど、先日の雷雨の時に濡れたせいか　電源が入らない。晴れていれば良い景色なんだろうな～　と考えつつ濃い霧の中下る。下りきると、またアップダウン・・・ややテンションが下がる。　しかし、BREST 前の橋で大西洋見てテンションが上がる。

(やっと折り返しだ)

(初大西洋ｷﾀｰ)

(制限時間 30 分前！！)

(おまけにデジカメ復活！！)

天気良いと思ってたけど、写真で見ると雲しかないな。　テンションが上がった時の補正ってすごいな。　時間に余裕が出来てヨッシャアと思っていたが・・・　街に入ってからチェックポイントまでが遠い。普通こんなデカイ橋渡って、街に入ったらすぐチェックポイントだと思うじゃん？　しかし、この港町無駄にでかくて、橋を渡り切ってから 15km ぐらい、街中を走る事になった。　途中演奏して迎えてくれた人いたけど、そんなフェイントは要らない。

611km 地点「BREST」(折り返し地点)、余裕があると思っていたのに、付いてみると 10 分オーバー OTL 大体予想はしていたけど、特に何も言われる事も無く、「ボンジュール」→チェック→「メルシー」　ってな感じで今まで通りチェック終了。正直眠たかったが、時間が無いので食事だけしてスタート。折り返しの BREST をスタート。

あんまり寝てないつもりで(合計 2 時間弱？) 気のせいか調子も良く、何だか良く分かんないけど、この時(あれ？もう折り返しか、これ行けるんか

も？）と本気で思っていた。でも少し考えてみると、全くそんな事はなく、600kmに到着した時点でタイムオーバーしてるし、睡眠時間にしたって国内で4回完走した600km中でも2時間も寝たことはなかった。最高でも仮眠30分程度で走りきって、完走後でもあまり眠気はなかった。それなのに・・・あの時はそんな事も分からず、行ける気だった。プラーシーボ効果って気休めかと思っていたけど、本気で思い込めば何処からか力が湧いてくるもので、折り返して結構な距離は頑張ることが出来た。少し街を離れると本当に何も無い気持ちのいい道なんだけど、悪く言えば大して変わらない景色が続いているわけで・・・飽きてきて寝不足なら、眠くなるのは当たり前で、暗くなるとどうしようもない。堪らず道端で仮眠・・・したつもりがガタガタという衝撃で現実に戻る。どうやら道端で寝るという夢を見ていたらしい、走りながら。サイコンのメーターは300mほど進んでいる。間違いなく走ってはいるようだが、全く記憶にない。これは流石にヤバいと思い、今度こそ寝た。っていう夢・・・これを3回ぐらい繰り返す。横から抜いて行く人に英語で「草むらを走っている時があるが大丈夫か？」って心配された。取りあえずOKとだけ言った。多分これは現実。そんな危ない状況が続いていたが、完全に暗くなり、次のPCまで20kmぐらいになったとき、フランス人の家族に呼び止められた。端から見てかなりヤバそうなのは伝わったらしく。「何か飲むか？」「疲れているのなら、車で少し寝ていくか？」と優しい言葉をかけられたが、ここで防衛本能が働き、（序盤なら分からなくもないが、こんな時間に車止めて、わざわざ待機しているのはおかしくないか？しかも車の中で寝ていけなんて、そんなうまい話があるわけない）・・・（あと、自分の理解している英語が正しいのか？）などと考えた結果、断った。そして、あと5kmとなったところで、眠

気が吹っ飛ぶほどの左膝の痛み。正直この眠気が無くなるのなら、このタイミングで膝が痛くなったのはナイス。とアホな考えで進めたのは3km程度。残り2kmとなった時点で、膝限界、眠気も出てきて道端にダウン。この時点で制限時間を1時間オーバーしており、例えチェックできても完走は無理と判断して爆睡決定。夜明け近くまで約7時間、路上で爆睡。参加者が何人か通った気がしたけど、わざわざ左側に移ったから起こされなかった。新聞配達員のバイクのエンジン音で目覚める。息が白くなるくらい寒く、ガタガタ震える。軽くストレッチ、膝はまだ痛いけど寝る前ほどではない。ガッツリ寝てスッキリしてPCを目指した。ある程度体調が良いと2kmなんてアツという間。既に10時間ぐらいオーバーしてるけど奇跡を信じてPCに寄ってみる。が・・・やっぱり閉まっていた～昨日はあれだけ賑わっていたのに、なんて寂しいんだろうか。

703km地点「CARHAIX-POUGER」タイムオーバー、駅の場所が分からないので、取りあえず次を目指す。しかし、隣が仮眠所になっていて人の気配を感じたので寄ってみる。英語もフランス語も話せないのに人がいても仕方ないのだが、もしかしたら日本人がいるかもという僅かな可能性にかけた。※日本人参加者は約2%すると日本人何人かという奇跡、しかもここでリタイアするらしく駅に行くらしい。さらにスタート地点にまで行くとか、目的地まで一緒！！これは付いていくしかない、すぐ近くの駅に向かう。その人は輪行バッグを持っていたので問題ないが、自転車を載せるためにここで買わなければならない。

お値段39ユーロ・・・高い（「□」；）！！+ 電車賃79ユーロ・・・（ノ 口・・）グズ
出せなくはないがこれは厳しい。折角のチャンスだったが、もう少し走れば安くなるかもと考え。
「まだ走れそうなので、折角なのでもう少しフラ

ンスを楽しみます」ってな感じで再スタート宣言。そしてしばらくは談笑しつつ、適当なところで再出発。駅でフランスに来て始めて自販機を発見。コインの入れ方が非効率だった。大分時間使っちゃったけど、もう時間関係ないしノンビリ進む。しばらくして膝の痛み再発、あの時ケチった事を後悔する。15km/h も出ないくらいピンチな状況だったが、道は良く眠気は無いので快適ではある。

736km 地点「SAINT-NICOLAS-du-PELEM」、もう片付けしていたが、朝食を食べさせてもらう。テントの下には誰もいなくて非常に寂しい(´ー`)。朝食をとっている間に、おそらく今大会一番の快晴になる。膝はもう限界近かったが、駅は無さそうなので次を目指す。所々、家の前には机が出されて空き瓶が置かれていた。おそらく参加者達を向かえてくれたんだろうな。小さな集落を通るときに、道を間違えそうになったら前から来た人に何か叫ばれ、指差しで正解の道を教えて貰ったりもした。特に大会に関係しているボランティアの人でも無さそうなのに、間違えそうになっただけで教えてくれるなんて、日本では有り得ないな。オーバードライブとかでもあったけど、参加者を励ますために道路に字を書くなんてのがあったけど、ここでそれを初めて目撃した。PARIS 450km ってペイントもあったけど、カウントダウンには少し早くないか？あと数 km でっていうときにフランス人夫婦に呼び止められて、ランチを頂いた、お互いに会話できる言語が無く片言の英語ではすぐに気まずい感じになったが、ランチは大会中食べた中で一番おいしかった。

782km 地点「LOUDEAC」、ここはドロップバッグを受け取れる場所であり、日本語が通じる人がいるかも、と奇跡を信じたが 12 時間オーバーしてるので奇跡は起こらず、スタッフの人は大体の片付けを終えて宴会を始めていた。スタッフの所行っても、言葉分からないけど、いきなり駅に行くのよ

りはマシなはず、というかまず駅の場所を知らない。宴会している所に近づいてみると、いきなり誰かが「ジャポーネー！！」とか言い出して、周りもそれに乗ってきて一気に ジャポーネの大合唱！！なんだこの歓迎(?)のされ方は、良く分からないが、ここまでよく来たガンバレって言われてる気がする。でリタイヤするのでブルベカード渡したら、前の PC の所が空白になっているのを見て「oh～～」とかがって悲しんでいる表現をした後、特に変わった様子もなく、当たり前のようにチェックされた！！どうやらどんなに遅れても、その場でスタッフを見つけるとチェックしてくれるみたい。そんな事が分かったところで、前のが無いからリタイヤするしかない、行けるとこまで行ってもいいが、膝が限界なのでここでリタイヤした。

PBP の大会については既に mixi に上げていた日記を写真の部分を除けてコピペしただけなので、所々おかしいところがあるとは思いますが、そこはうまく読み取って下さい。

i Audax Japan,14/09/2011,
<http://www.audax-japan.org/Brevet.html#Anchor-49575>

ii 日本チーム初めての Paris Brest Paris Randonnuer 2003 年の記録,2011,
http://audax-saitama.org/PBP/2003/pages/2003_1.html

iii LONG RIDERS,2011,Vol1

iv CountryMorning,2011,
<http://countrymorning.net/>

v 表浜 BLUEWALK ブログ,2011,
<http://ameblo.jp/omotemamabluewalk/>